



こどもに寄り添う保護者や 支援者のケアについて

和歌山のこどものために大人は何ができるか

日時

2025年
11月30日(日)
13:30-16:00

場所

和歌山県民文化会館
小ホール

定員

先着200名

対象

一般/心理師/教職員/福祉領域/
医療領域/司法領域の
こどもと関わる専門職の方

申込

QRコード →→



Google フォーム

<https://forms.gle/Ry2ofSANjXUQTJDr6>

無 料

締切
11/16

プログラム

- 13:30 開会の挨拶
代表理事（会長）深谷 薫
総合司会
理事 森口 浩司
- 13:40 基調講演
「支援者や家族の疲労とケア」
理事 坂田 真穂
- 14:00 シンポジウム
・「不登校の児童生徒がいる
家族や支援者のケア」
理事 小山 秀之
・「特別な配慮や支援を必要とする
こどもに関わる大人のケア」
会長 深谷 薫
・「加害者家族や支援者のケア」
副会長 石井 勇氣
・「自死家族や支援者のケア」
副会長 森崎 雅好
- 14:40 休憩
- 14:50 ディスカッション
質疑応答
- 15:55 閉会の挨拶
監事 上野 和久



問い合わせ：一般社団法人和歌山県公認心理師協会 wakayama.cpp@gmail.com

主催：一般社団法人和歌山県公認心理師協会

後援：和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会 和歌山県臨床心理士会 和歌山県精神保健福祉士協会

演者紹介

相愛大学准教授

和歌山県公認心理師協会 理事

坂田 真穂



「支援者や家族の疲弊とケア」

人を支えるということはとても骨の折れるしごとです。家族はもっとも近くでこどもを支える存在ですが、抱える問題が大きかったり、なかなか解決に向かわない時には、深刻な疲弊に陥ります。しかし、家庭内のことだからこそ周囲には話せず、問題を抱え込んでしまうことがあります。また、社会には、支援ニーズのあるこどもたちを支える大人がいます。しかし、その献身にも関わらずこどもを救い得なかったとき、あるいは、社会のさまざまな力動に板挟みになったとき、彼らもまた深い葛藤に苦しみます。

公認心理師の「こども支援」は、こども本人へのアプローチだけでなく、そうしたこどもを取り巻く家族や支援者をケアすること、あるいはこども支援の場を丸ごと抱えることだと考えます。本シンポジウムは、今年の「こどもの未来への心理支援」に続く第二弾として、支援者や家族へのサポートを通じてこどもを支えるという視点から考えていきたいと思います。

NPO法人PeerNet(理事長)、横浜市立大学(客員准教授)
内閣府こども家庭庁(アドバイザー)
和歌山県公認心理師協会 理事 小山 秀之

「不登校の児童生徒がいる家族や支援者のケア」

不登校の児童生徒数が増加する中、支援に関する情報があふれ、こども達を支えている家族や先生、支援者の中には混乱している方もいるかと思います。不登校からひきこもりに発展すると、支援が長期化するケースも少なくなく、当人のみならず家族の社会的孤立の予防も必要と感じております。不登校支援においては様々な支援観がありますが、演者の教育・医療・福祉現場での経験が少しでも支援のヒントになれば幸いです。



和歌山つくし医療福祉センター 他
和歌山県公認心理師協会 会長 深谷 薫

「特別な配慮や支援を必要とするこどもに関わる大人のケア」

病気や障害、社会的養護を必要とするこどもに関わる大人は、我を忘れて一生懸命に過ごすあまり、疲れや孤独を感じやすくなりがちです。大人が自分の心を大切にし、必要なケアや支援を受けることは、こどもが安心して過ごす基盤になると考えています。大人の心の安定やケアの大切さ、支援を求めてつながる在り方について、皆さまと共に考える機会にできれば幸いです。



大阪保護観察所
和歌山県公認心理師協会 副会長 石井 勇気

「加害者家族や支援者のケア」

犯罪は、加害者と被害者のように分けられることがありますが、傷つける者と傷つけられる者だけに影響を及ぼすものではありません。家族、支援者、関係者、組織、社会など、様々な人々に影響を与えます。加害者の周辺の人々が、どのような状況に置かれ、どのような心情になるのかについて、お話をさせていただきます。その上で、ケアやサポートすることを考えたいと思います。



高野山大学文学部教授

和歌山県公認心理師協会 副会長 森崎 雅好

「自死家族や支援者のケア」

自死という現象は、家族や関係者に大きなショックとともに大切な人をうしなってしまったという悲痛な思いを引き起こします。そして、どうして気づくことができなかったのか、止めることができなかったのか、という「後悔の念」が生じてきます。これらの念いは生じさせられた受動的な情動体験です。これらの念いとゆっくり向き合いながら、日常を維持するための心配り(ケア)の視点について触れたいと思います。

